



未来の自分のために、幅広い知識を学ぶ

人文社会科学科長 高橋 和

今年度から、人文学部は人文社会科学部になりました。4月から何が変わったのですかとよく尋ねられます。人間文化学科と法経政策学科という二学科体制は、今年度から人文社会科学部人文社会科学科という一学科体制になりました。人文社会科学部という名称変更によって、社会科学系の学問も含まれるということが明示的になり、人文科学系の学科と社会科学系の学科が一つになったことで、人文科学系と社会科学系の垣根は低くなりました。

学部・学科の名称の変更は、現在の社会情勢の変化に対応できる人材を育てたいという大学の期待が込められています。現代社会の抱える問題、たとえば難民について理解しようとする、難民が置かれている状況だけでなく、難民が生まれ出される背景(歴史学、政治学、経済学)やどのように対処するかという法制度(国際法)のみならず、難民という立場に置かれたことによ

る心理的なダメージや将来への不安(心理学)、家族の離散(社会学)など人文系、社会系にまたがる幅広い分野の知識に基づく、洞察が必要となります。このように現代社会の課題は、多方向から考える必要があるからです。

大学の教育の目的は、知識の獲得から応用できる技能へと移ってきています。しかし、今すぐ使える知識や技術は、急速に進化する社会においてはすぐに役立たなくなります。無駄に思えてもいろいろな知識を吸収しておくことが十年先、二十年先に様々な形で役に立つでしょう。大学での勉強は、大学の4年間と卒業後すぐの就職のためではなく、長い人生を支えるためのエネルギーを蓄えるためと考えると、学問分野を横断的に学べる機会を利用してできるだけ多くの知識と経験を身につけてほしいと願っています。



人間文化コース

渡辺 文生

人間文化コースは、人文科学の確かな素養をもとに、地域の文化資源を深く理解し的確に発信できる人材を養成することを目標にしています。1年次では、「日本歴史文化論」などコースの多様な分野の視点から日本を論ずる日本学入門科目と、コースの専門分野について俯瞰的な知識を得るための「人間文化入門総合講義」が必修になっています。2年次以降は、5つの主専攻プログラム(文化人類学・環境動態論などが領域の《文化人類学プログラム》、日本史・

アジア史・ヨーロッパ史などが領域の《歴史学プログラム》、認知科学・情報科学などが領域の《認知情報科学プログラム》、日本文学・日本語学などが領域の《日本学プログラム》、芸術文化・表象文化・哲学などが領域の《文化解釈学プログラム》)に分かれて専門教育科目を編成しています。他のコースとも同様に、社会人としての基礎的な力を学ぶためのジェネリックスキル科目や実践科目なども、カリキュラムに盛り込まれています。実践科目の中には、文化人類学のフィールドワークを体験し異文化理解の能力を養う課題演習や、美術館・博物館を実地に見学し地域における文化活動の意義と課題を探る課題演習などがあります。また、国語や社会(地歴公民)の中高教員免許状を目指す人や日本語教育に関心のある人のためには、副専攻プログラムを設けてきめ細かな指導を行っています。これらのカリキュラムを通して、人文科学の知識を社会的に活用できる人材を育てていくことを目指しています。

の理解に関する教育では、1年次の「グローバル・スタディーズ基礎講義」でグローバル・スタディーズの多種多様な分野を概観し、2年次の「グローバル・プロブレマティク基礎演習」で多文化主義や難民問題、外交など国際社会・文化の具体的なテーマを掲げ、クラス討議を通じた解決策の作成を実践し、調査・分析・発表の手法を学びます。これを核にして、広範な専門分野を学び、グローバル化社会の諸問題に柔軟に対応する知識・能力を身につけます。また、③協定校留学や海外研修では、事前に行われる「留学事前演習」や指導により自己表現力や積極的姿勢を涵養し、現地では異文化社会での勉学や現地大学生との共同調査などを通して、異なる背景を持つ世界の人々とのやりとりを実践します。本コースは1学年の定員が45名とコンパクトな規模ですが、そのぶん一体感があり、相互に刺激し合い励まし合える学修環境が整っています。



グローバル・スタディーズコース

富澤 直人

グローバル・スタディーズコースは、高度な外国語能力と、国際社会に関する人文科学・社会科学の幅広い教養に基づいて、地域社会のグローバル化に対応できる人材を養成します。本コースの専門教育は3つの柱(外国語、国際社会・国際文化の理解、留学・海外研修)から成り、①外国語教育は、英語・中国語・ドイツ語・フランス語・ロシア語の強化クラスによりグローバル人材として活躍するための実践コミュニケーション力を磨きます。②国際社会・国際文化



総合法律コース

コーエンズ 久美子

「社会」があるところには、「法(ルール)」があります。ということは、皆さんは日常生活の中で、法の存在を実感している…??とは言えないかもしれません。たとえば、コンビニでアルバイトをしていて、お客さんが買ひ物の代金を支払えばそこで済みですが、支払いをしなかったときに「法」が顔を出して来ます。つまり、普段はひっそりと影を潜めているけれども、いざというときに問題を解決するためのルールを私たち、社会は必要としているのです。そしてこうしたルールは、価値観、考え方が異なる人々がともに生きていくために、「公正」であることが要求されます。



地域公共政策コース

下平 裕之

地域公共政策コースは、地域社会やコミュニティが抱えるさまざまな課題を適切に捉え、実践的な活動を通じてその解決に取り組む人材を育成することを目標としています。より具体的に言えば、行政・企業・住民の枠を超えて活躍できる知識・能力を身につけた地方創生の担い手となる人材づくりを目指しています。このために、地域社会やコミュニティが抱える様々な課題を把握・分析してその解決に取り組むための知識と技能を実践的に学ぶため、以下のような特色あるカリキュラムを用意しています。

・公共政策・地域政策に関する充実した科目群に加えて、経済学・経営学・法学などのコース横断的教育を受けることがで



経済・マネジメントコース

岩田 浩太郎

「人間が主役の社会づくり」。この言葉は本コースの教育研究の指針です。経済学や経営学というと、数式を使い利潤を生み出すための生産や販売の方法について学ぶイメージがあります。

しかし、過労死のように企業の利益のために働く人間が不幸になる現状は、経済はなんのためにあるのかという問いを私たちに突きつけています。世界的規模での貧富の拡大、原発と環境汚染、地域の過疎化と衰退といった問題はどのように解決できるのか、一人一人が幸せと思える社会はどのような世の中の仕組みのもとで実現できるのか、こうした普遍的な課題を考えることは社会のなかで

総合法律コースでは、さまざまな分野の法律を学ぶことを通じて、社会の問題の本質を理解し、解決方法のあり方、結論に至る論拠を考える、といった理論的な思考方法を習得します。いろいろな意味で大きく変容している現代社会の諸問題について、私たち教員は皆さんに問いを投げかけ、皆さんの価値観に揺さぶりをかけて行きます。「公正なルールってナンだろう」と、問題状況について想像力を駆使しながら、一緒に議論してください。

また皆さんの「想像力」を高めるための授業として、「法務実践演習」という科目を新たに開講することになりました。まだ準備段階ではありますが、一部トライアルを実施しています。「商社マン」になって、上山市の部品製造メーカーに出張したり、「弁護士」になって、大切なベットの交通事故で失った被害者の法律相談を受けたりしてみませんか?

き、これにより地方創生・地域課題解決を考えるために必要な知識を得ることができます。

・地域社会を空間・コミュニティという視野から考えるための地理学、社会学も同時に学ぶことにより、地域社会の課題を個別に取り上げ、調査・分析・政策提言という一連のプロセスをデザインできるようになります。

・自治体やNPO等と協力した実践的な演習科目により、地域の活性化と持続的発展を可能にするための多面的な取り組みを考え実行できるようになります。

本コースの想定される主な進路は公務員となりますが、NPOや観光業、不動産業など地域に関わるさまざまな分野に進むための力を身につけることができます。地域社会のさまざまな課題・問題に関心のある方におすすめのコースです。

の大学の大きな役割の一つです。

本コースのカリキュラムは、経済学や経営学の様々な科目が揃っているとともに、法律学や政治学など関連する社会科学の諸分野も幅広く学べる内容になっています。また、地域経済や企業活動の実際を現場で学べる実践科目も開設し、学生さんが体験から刺激を受けていろいろな問題を主体的に考えていくことを大切にしています。4年次には自分で選んだテーマを調査研究した成果を卒業論文にまとめ、事実に基づいて経済社会の動きを理論的に解明する社会科学の方法を身につけます。

是非、本コースのカリキュラムを活かして、刻々と変化する経済社会に対して大きな視点から課題解決を考える思考方法を学び、将来社会人となる基礎を培っていただきたいと期待しています。